

起 承 転 結

起：BBQや花火等の活動が生まれる。庭のような場。
 転：さらなる物語を彷彿させる。暗示の場。

承：一人になりたいとき、逃げ込める場。自分の場。
 結：家族の家。新しい物語の始まり



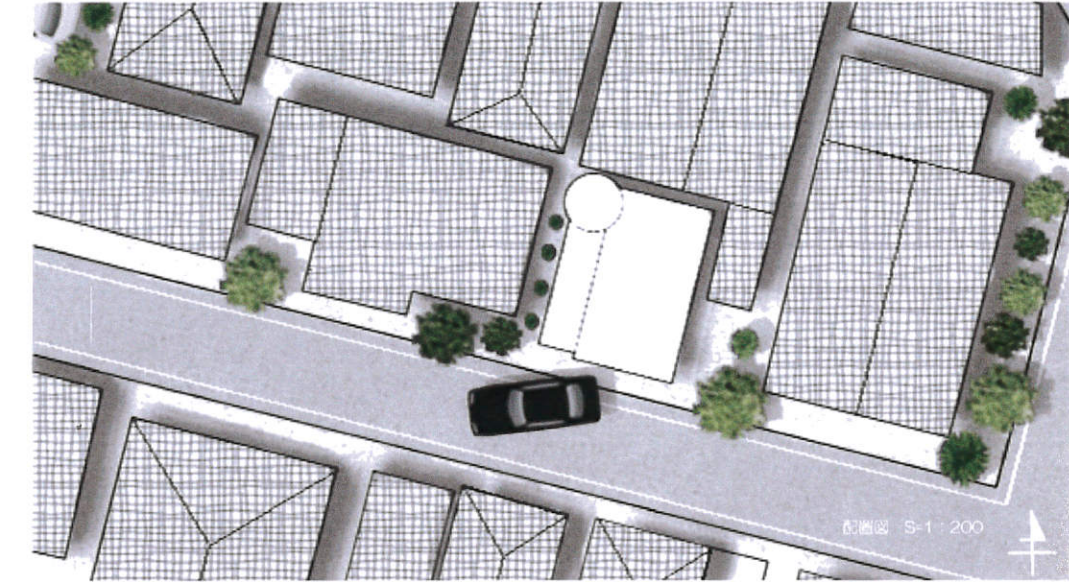
「起」 物語の導入部 観客の引き付け
 の要素は家族を引きつけ、外からのイメージを引き付ける。
 家庭のガレージは道路に面しているために家の顔となることが多い。



私はコンクリートブロックの壁でガレージを物語の生まれる空間にしたいと考えた。
 ガレージは本来、車を格納するための空間として存在する。
 私はそこに物語が生まれ、都市のなかで家族がゆっくりと過ごすことも賑やかに楽しく過ごすこともできる空間にする。

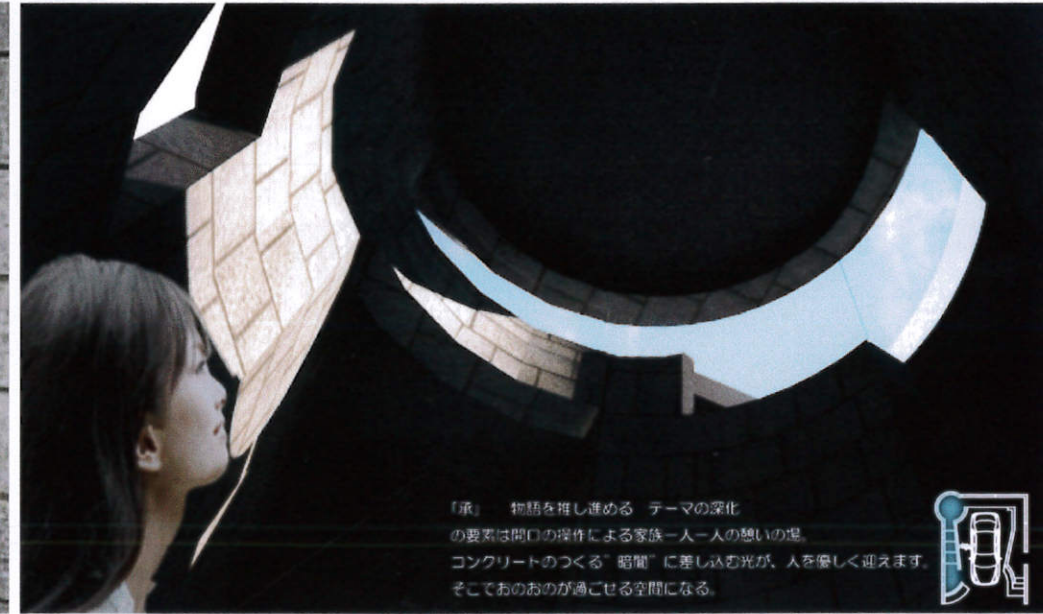
コンクリートの特性

コンクリートの持つ力強さは“暗闇”を生み出す。厚みのある物質のように存在する“暗闇”は差し込む光によって削りだされて、人、ものが浮かびあがる。広く光あふれる家が多くなる中、ガレージには逃げ場のなくなった“暗闇”が美しいコントラストとして浮かびあがる。光にあふれる空間ではなく、確かに“暗闇”を意識することでコンクリートブロックが成せる空間。そこは車を格納するだけのフレームではなく、物語を生むシーケンスを持った空間となる。



配置図 S-1 : 200

分厚い暗闇に切り取られた自然は普段より絵画的が増す。光に照らされているものの物質性が増す

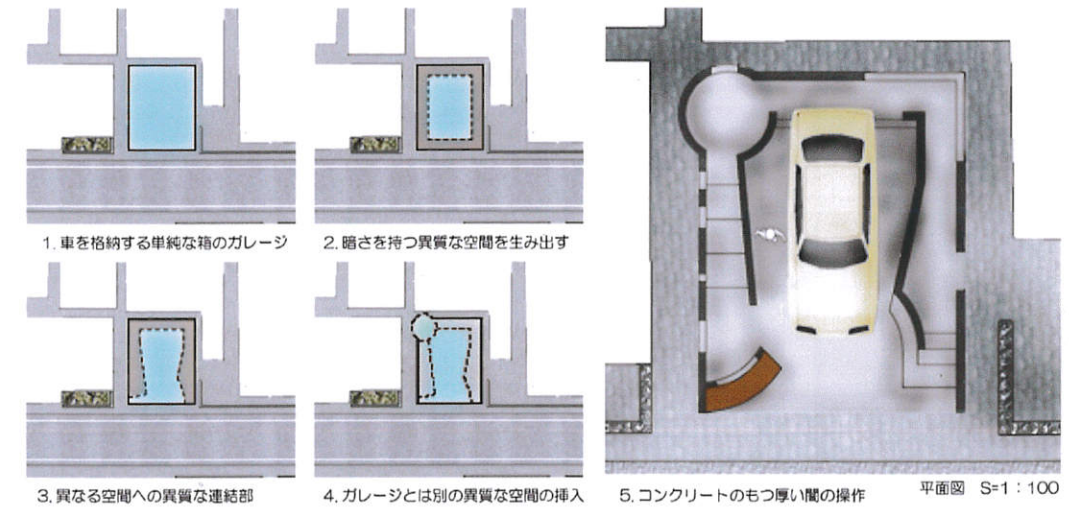


「承」 物語を押し進める テーマの深化
 の要素は開口の操作による家族一人一人の熱い想。
 コンクリートのつくる“暗闇”に差し込む光が、人を優しく迎え、
 そこでおのおのが過ごせる空間になる。



ガレージに物語を持たせる：シーケンスを作り出す

シーケンスを生み出すために空間を作る。それは均質的で同じ空間が続くような連続的なシーケンスではなく単純な箱に異質な要素を組み込むことによって断続的なシーケンスを生みだす。断続的なシーケンスはより忘れがたい空間体験ができる。



1. 車を格納する単純な箱のガレージ 2. 暗さを持つ異質な空間を生み出す
 3. 異なる空間への異質な連結部 4. ガレージとは別の異質な空間の挿入 5. コンクリートのもつ厚い闇の操作 平面図 S=1 : 100

厚いコンクリートを穿りつた開口は時に続く道を暗示し、曲面や斜めの壁は向こうの空間を暗示する

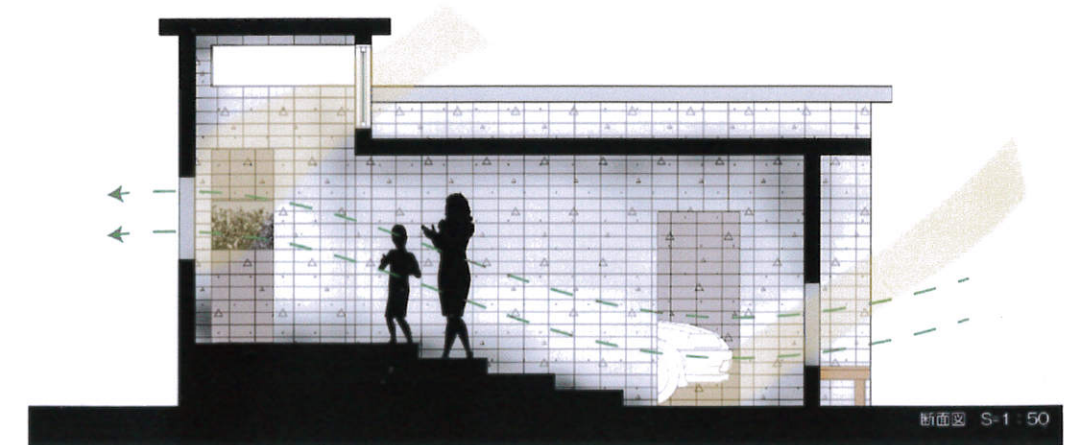


「転」 家族が過ごす「結」に向かう転換期
 の要素は「結」の存在を暗示して移り変わりを予期させる。
 シーケンスが生まれ物語性が増す。



自然との調和を図るコンクリート

高さの違いにより生まれる感覚的な自分だけの空間。とりこまれる光。階段によるレベル差によって異なる空間へと向かう意識が生まれ、
 自然に風が抜けていく。断面関係の操作によって生まれる意識、自然との関わり。



断面図 S-1 : 50